

平成25年度経営評価委員による年度末評価

○：よい点 □：改善点・助言 ◇：期待・継続の要望

1 平成25年度事業についての意見・感想

<p>経営全般</p>	<p>○教育事務所で、ユニバーサルデザインの授業づくり、ホワイトボードを使った教育相談の在り方の研修に参加し、センターでの知識構成型ジグソー法をもとにした協調学習の研修を参観した。いずれも、これからの教員にとって非常に有効であると感じた。ユニバーサルデザインは、全ての教員の授業づくりに必要な視点を再確認するもの。ホワイトボードを使った教育相談の手法は、いじめ防止のため学校組織がこれまで以上に機能していく上で、教員が身に付けておくべき技能。協調学習は、PISA型学力を培うために有効であると感じた。</p>
<p>研修講座</p>	<p>○講座の評価（A+B）が概ね100%であり、センターとして受講者のニーズを意識した研修内容を設定した成果と思われる。</p> <p>○たいへん興味深い研修講座が多い。ネーミングもわかりやすくよい。また、出前講座も魅力的。多忙によりなかなか研修に出られない現状を考えると、学校としてもっと出前講座を活用すべきであるとする。</p> <p>○県内教職員の約1割が県教育センターを会場にした研修を、約4割が出前講座を受講したという実績に敬意を表したい。県内教職員のニーズや時代の要請に応じた研修内容、研修形態で、研修を実施した成果と思う。</p> <p>○学校の実態や課題に合わせた専門研修の講座開設や、教師と児童生徒との時間の確保と研修の両立を図ったイブニング専門研修講座、県教育センターが企画する教員研修を学校で行う出前サポート等により、教員の資質及び指導力向上に向けた研修の充実が図られている。</p> <p>○初任者研修の年度初めの計画作成は各学校とも難儀であるが、その計画作成研修にセンター指導主事が対応していることは、心強い。</p> <p>□講座担当者の立場からすると、「ここをこうしてもらおうと助かる」とか「この点にもふれてほしかった」という改善点を書いてもらおうと、今後に生かせる場所も大きいのではないかと。自由記述でそうした点も書かれているのかもしれないが、もしまだなら次年度に向けて検討してほしい。</p> <p>□受講者自身の研修成果が学校の活性化にも活かされるよう、さらに意識化を図ってほしい。</p> <p>□実技を伴う体験的研修の成果をアピールしてほしい。教員の参加意欲につなげたい。</p> <p>□専門研修の評価が若干ずつ下がってきているようなので、内容を精査して、向上するように検討してほしい。また、遠方地域に配慮した出前サポートやサテライト講座の実施も、ニーズにあった対応をお願いします。</p>
<p>支援事業</p>	<p>○出前サポートにおいて、県費負担の旅費で校内授業研究会に派遣してもらい、感謝している。</p> <p>□「先生応援サポートプラザ」について、学校の応援団を自負するPTAとして、この事業の充実に大いに期待している。この研修内容の中に保護者との関わり方、何より学校と保護者の信頼関係を深めるコミュニケーション論等があれば、良い方向に進むと思う。できれば、この研修に保護者の意見などが取り入れられた内容になればよい。</p> <p>◇センターでの研修だと、1人しか行けないが、自校での研修会なら全員が参加できるので、ありがたい。</p>
<p>研究 情報教育</p>	<p>○「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック」は、学級経営や授業づくりにおける資料としてたいへん有意義な内容。学校に出向いた際にも、たくさんの学級でその視点を取り入れた工夫が見られた。</p> <p>○「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」は、「ユニバーサル」という言葉を与えることにより、概念の輪郭がより明確になり、教育レベルの全体的な改善を効果的に進めることができると考える。「『協調学習』と新しい学びの構築について」は、児童生徒の学びの力を他者との関わり合いの中で高めようとするもの</p>

	<p>であり、今後の学習の在り方にとって重要な方向性を導入しつつあると評価できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 研究事業について、研究で成果が見られるものはできるだけ早急に、全県下の授業で取り入れられるような体制の構築をお願いする。</p> <p><input type="checkbox"/> 研究事業については、多くの教員が授業作り等のために利用しやすいプログラムやハンドブックの作成が望まれる。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報教育の事業について、これからも重要な課題の一つになると思う。今後も校内研修支援の充実をお願いする。特に、スマートフォンやゲーム端末機を使う時のルール作りなどの研修をお願いしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報教育の事業については、児童生徒に対する情報モラルの教育をいかに進めていくかという視点とともに、個人情報保護の観点からの教員自身の情報モラルをいかに進めていくかといった研修も行っていくべきではないか。</p>
相 談 特別支援	<p><input type="checkbox"/> 特別支援教育の事業については、これからの時代はその重要性、必要性が増えてくると考えられる。先を見越した対応をお願いする。障がいがあるからできないと決めつけるのではなく、何度も根気強く繰り返し教え、体験させることによって学んで行くこともできますので、成果のあった情報や体験談の共有も必要だと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 教育相談の事業について、保護者と学校の信頼関係を構築できるような取組みも継続してお願いする。</p>
連 携	<p>◇学校経営計画指導訪問において、教育センター指導主事の派遣要請に応じてもらった。特に、大規模校の技能教科や特別支援教育については教育事務所だけで対応できないので、センター指導主事に専門的な授業指導をしてもらい感謝している。このように指導主事が要請に対して柔軟に対応できる仕組みは継続してほしい。</p>

2 平成26年度への取組みについての意見・感想

研修講座 長期研修	<p><input type="checkbox"/> 「全国学力テストを活用した算数・数学の授業改善講座」に期待する。受講者募集に当たっては、その趣旨の徹底を図ってはどうか（学校に理解してもらうことも重要）。</p> <p><input type="checkbox"/> 「学力向上」を意識した研修講座の充実について、算数・数学の授業改善講座の開講をすとの改善策はとても期待するところ。また、問題の意図を十分に理解する力をつけるためにも、ぜひ国語についても、読解力の向上を目指した取組みをお願いする。</p> <p><input type="checkbox"/> 管理職・中堅教員研修が必要ではないか。管理職や中堅の主任クラスの先生がマンネリ感を打破し、やる気を起こすような内容の講座が必要。日ごろの疲れを癒やすような目先の変った内容の講座がよい。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種講座等、学校のニーズに応じた魅力的なもの。教諭だけではなく、講師等も積極的に参加できる体制ができればよい。</p> <p><input type="checkbox"/> 特にワークショップの形態による研修には満足度が高いようである。成長期・伸長期にある教員に対する研修にワークショップの形態を中心とした研修をもっと取り入れてもよい。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校教育の鍵は、保護者との信頼関係にある。教育センターでは、教科・特活などの教育課程に関した研修が中心になると思うが、保護者や児童生徒とのコミュニケーション感覚を高める研修も大切にしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会的問題になっているいじめについて、教員のいじめに対する感度を高めていくための研修（生徒や保護者からの相談対応、校内での情報共有の方法など）を充実させていくべきである。</p> <p><input type="checkbox"/> 小・中学校、高等学校において、発達障がいなどの子どもたちに対する特別支援教育の充実が求められており、専門的な知識・経験のない一般教員に実践的な研修を実施していくことが大事である。</p> <p><input type="checkbox"/> ホワイトボード教育相談、協調学習については、その有効性をさらにPRし、サテライト講座や出前講座という形でも対応できるようにしてほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 教員のニーズや喫緊の課題をテーマとした講座（学力向上や生きる力の育成、いじめ等）が企画されており、各教員、各学校における課題解決の一助となることを期待している。各講座の成果が各校の教育活動に生かされるよう工夫するなど更なる</p>
--------------	--

	<p>充実をお願いしたい。</p> <p>□初任者の夏期休業中における研修（県教育センター、教育事務所、市町教委における研修等）が多く、研修日が毎週続いている状況であることから、研修体系の見直しやそれぞれの研修の関連を図りながら、効果的な取組みになるようにしていかなければならないのではないか。</p> <p>□初任者自身がメンタル面をコントロールするための研修プログラムの充実が必要である。</p> <p>□初任者の配置を高等部及び高等養護学校にもできるようにし、初任者研修を幅広い学校や学部でできるようにしてほしい。特別支援学校は学校数が少ないため。</p> <p>□初任者の校内研修内容について、OJTをフルにカウントできるようにし、軽減を図っていただきたい。</p> <p>□県教育センターの長期研修が魅力的なものとなるように期待する。研修に行ってみたくするような、研修意欲をかきたてるような、長期研修を望む。そのためには研修内容方法の裁量幅を広く認めていくような工夫をすべきである。</p>
支援事業	<p>◇センターの指導主事が学校に出向いて講座をもつこと、土曜日や夕方の講座も実施していること、ありがたく思う。担当者の負担はたいへんだと思うが、これからもよろしくをお願いしたい。</p>
研究 情報教育	<p>□子どもたちの学力向上に向けて、特に、本県として弱い算数、数学について、独自の問題集の検討・作成や、指導方法の確立等、センターとしても力を入れていくべきである。</p> <p>□本県では、いじめ防止対策推進法の施行を受け、「いじめ防止対策の推進に関する条例」の制定と「県いじめ基本方針」の策定について作業中である。「基本方針」では、喫緊の課題でもあるネットいじめについて、特に章を起こして記載している。情報モラル教育については、学校だけでなく、PTAや警察等でも積極的、継続的に取り組んでいるが、いじめの実態が見えにくい上に、教職員や保護者も児童生徒の実態に追いついていないという現状が問題を深刻化させている。県教育センターにおける情報モラル教育の研究成果を、学校やPTA（保護者研修会だけでなく団体も含めて）へも出前講座という形で、その成果・実績を広めてほしい。</p> <p>◇「協調学習」についての研究も、各校において大変参考になるものと楽しみにしている。</p>
相談	<p>□いじめについては、メールでの相談も受け付けているが、アドレスの周知や、他Webページとのリンクなどを行うことで、児童生徒がより相談しやすい環境をつくることのできるものと思う。</p>
情報提供	<p>◇学校現場への情報が少ない。県教育センターの動きを知ってもらえるような情報誌がほしい。研修生からの感想や学校へ出向いて指導した時のエピソードでも何でもよいので、あまり硬いものでなく、面白い読み物みたいなものを集めて発行してほしい。</p>

3 県教育センターへの期待や要望

経営全般	<p>□「いじめ問題」や「情報モラル教育」は、学校にとって喫緊の課題となっている。様々な面からの支援を、検討してほしい。</p> <p>□教育センターが、もう少し市民に開放された身近な機関としてあるとよいのではないか。</p> <p>□教育力は即ち国力なので、これからの我が国を背負って立つ有望な人材育成のためにあらゆる方策をとって尽力してほしい。また、子どもたちの成績や勉強の姿勢がちょっとしたヒントややり方によって向上するのと同じく、悩んでいる教員にヒントやコツを教えてあげられるような、まさに「学校や教員を支援する」気持ちで業務を進めてほしい。</p> <p>□これからの学校は、学校だけで教育課題を解決するのはきわめて難しいと感じている。良識ある保護者を増やし、それらの保護者を「つなぎ」、学校の強力な応援団にしていくという発想が益々必要になるように思う。「学校や教員を支援する」という立場をさらに推し進めるとともに、保護者も巻き込み、大きな力に結集するための</p>
------	--

	役割（研修や研究で）も担って（もちろん、学校や他の行政機関と知恵を出し合いながら）もらいたい。
研修講座	<input type="checkbox"/> 今後、新規教員の大幅な増加が予想される中で、初任者研修のシステムの更なる改善が求められていくものと思う。 <input type="checkbox"/> いじめ対策、学力向上、特別支援教育などにおいて、教育センターに対する期待は大きいものがあり、従来型の研修を見直すことも含めて検討すべきである。 <input type="checkbox"/> 訪問型やサテライト型の研修への要望がある。研修の在り方について、研究をお願いする。 <input type="checkbox"/> 初任者の人数の増加、初任者と子どもとの信頼構築（学校で子どもと向き合う時間がもっと必要との声もある）を考えれば、今後の初任者研修の在り方について、2・3年次に研修を実施していく方向を進めてほしい。 <input type="checkbox"/> 各種講座等の講師として、各学校の教員に依頼する場合、市教委を通さず、直接県センターから所属長に内諾を得るための連絡をしてもらった方が、選考理由や講座内容等についての詳しい説明をすることができ、よいのではないか。また、過去の経緯も踏まえた上での計画的な依頼が必要と思われる。
研 究	◇研究事業は、各学校でも関心の高いテーマと捉えているので、その成果に期待したい。
相 談	◇相談業務の充実を期待する。現場では対応が難しいケースの最後のよりどころとなる相談を手がける意気込みで臨んでもらいたい。 ◇いじめや体罰に関わる保護者の悩みに答える相談の充実をお願いしたい。 ◇各種相談事業については、丁寧に相談に応じてもらっている。今後も相談件数が増えることが考えられるので、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。
連 携	<input type="checkbox"/> 教育研究、教員研修、教育相談等に関しては、大学もセンターと同様の業務を行っている。両者の連携が研究事業だけでなく、教師の育成をトータルにとらえて、養成や研修（学び直し）についても連携していけるような関係を構築したい。
情報提供	<input type="checkbox"/> Webページの「授業情報システム」について、各市町教育委員会、各小・中学校に対してID・パスワード等の通知を行いながら、なお、活用への周知を図ってほしい。外国語活動に関する実践の掲載が望まれるとともに、教科ごとの掲載量のばらつきについては整えてほしい。 <input type="checkbox"/> 教育センターのホームページについて、以前より使いにくくなったように思う。資料にあった「協調学習」のサイトに入ろうとしたが、うまくいかなかった。一般の人に見られて困るような内容は載せないで、オープンにできないか、検討をお願いする。
そ の 他	○「山形教育」は、内容が素晴らしい。毎回楽しみにしている。 <input type="checkbox"/> 「山形教育」の見直し。一般の教員にとっての必要性、山形県の教職員のニーズに合っているかを検討し、一般の教員に読者が広まるものにしてほしい。社会の状況や教育界の状況の変化に一層対応したものにしてほしい。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育の理念（安心安全に学べることを第一義とする、一人一人の小さな伸びを喜び大切にする、個々の違いを認めて大事にしていく、など）をすべての講座に反映させていくべきだと考える。 <input type="checkbox"/> なかなか研修の機会がない寄宿舎指導員の研修の場を検討してほしい。